

PROFILE

ご案内

2025-2026





わが国は現在、加速する少子化や東京一極集中による地方の人手不足に直面するほか、米国の関税政策による影響が経済の先行きに不透明感をもたらしています。

とりわけ、中部圏においては、部品を含む自動車産業に対する関税の行方が懸念されます。

このような中においても、時代の潮流を確実に捉え、進むべき方向を見定めた上で、中部圏の明るい未来の実現に向けて力強く前進していくことが重要です。

中経連は本年2月に、2050年頃の「豊かで持続可能な社会」の実現を見据えた「羅針盤」として、「中部圏ビジョン2050」を策定しました。

今年度は、その道のを成長軌道につなげていくにあたり、「広域連携の強化」「オープンイノベーションの促進」「人材の育成・活躍」の3つを活動の柱に位置づけ、取り組みを推し進めていきたいと考えております。

具体的には、防災・減災対策の強化や広域観光の振興、東京一極集中の是正に資する活動のほか、GXとDXの同時進行による「製造業のスマート化」に向けた取り組み、将来を担う人材が当地で育ち活躍するための仕組みづくりなどに注力してまいります。

そして、3本柱を力強く進展させる推進力として、中部圏における半導体産業のさらなる振興に向けた取り組みを起動してまいります。

広域的な経済団体である中経連の役割は、当地の産学官金や地域を“つなぎ”、“挑戦と連携を引き出す”活動を通じて、中部圏の魅力や競争力の向上に向けた道を切り拓くことです。

会員の皆さまをパワーの源に『声と力をつなぎ、成し遂げる中経連』として、挑戦を続けてまいります。

引き続き、会員の皆さまからの変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人中部経済連合会

会長 勝野 哲

中経連とは

名 称

一般社団法人中部経済連合会
英文：Central Japan Economic Federation
略称：中経連

創 立

1951年（昭和26年）4月2日

会 員

主として中部圏において経済活動を展開している
企業・学校法人・経済団体など約800者（約4分の1が製造業）

活動エリア

長野・岐阜・静岡・愛知・三重の中部5県

創立の経緯

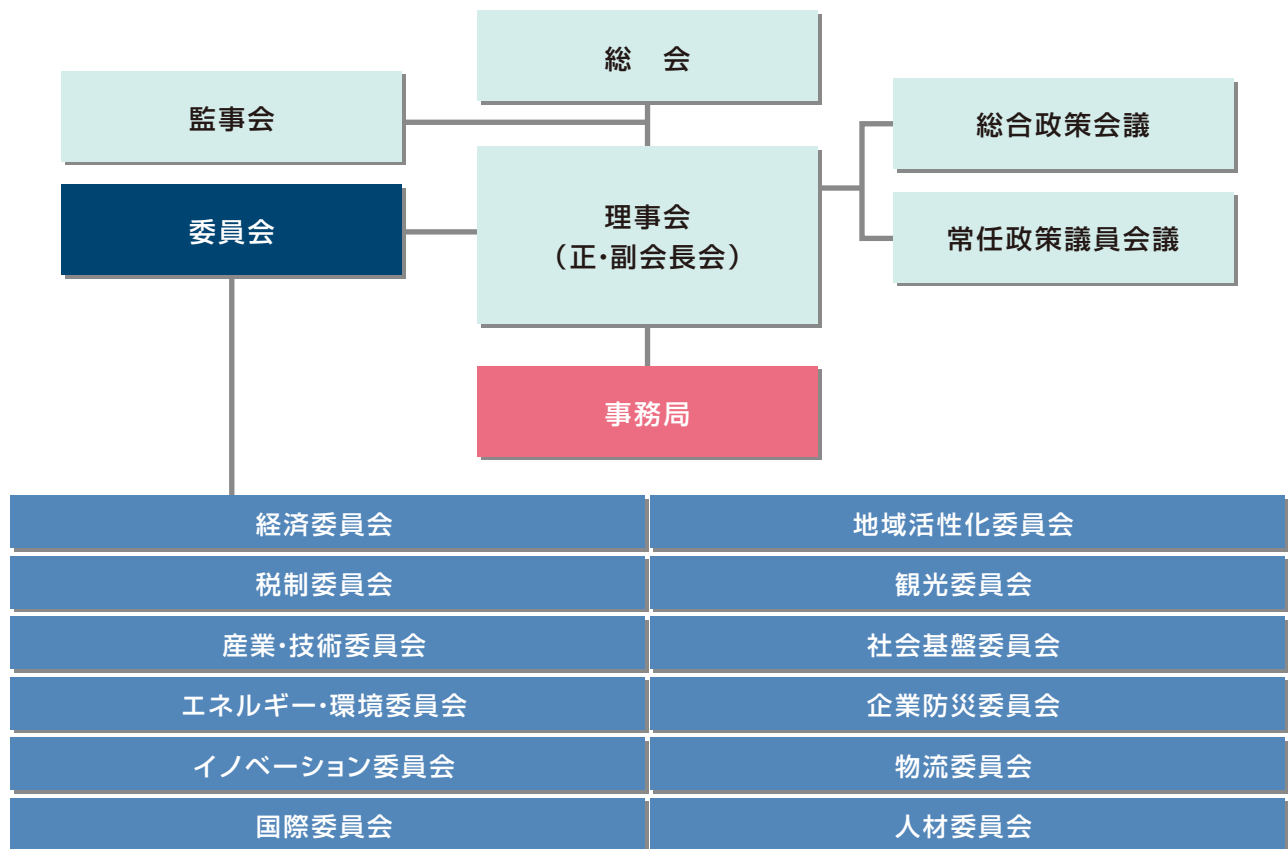
中経連は、未だ戦後の混乱期にあり、将来に対する不透明感が漂う1951年、中部経済界が一丸となって課題と対峙し、“中部圏の発展を支える”という強い決意のもと創立されました。

役 割

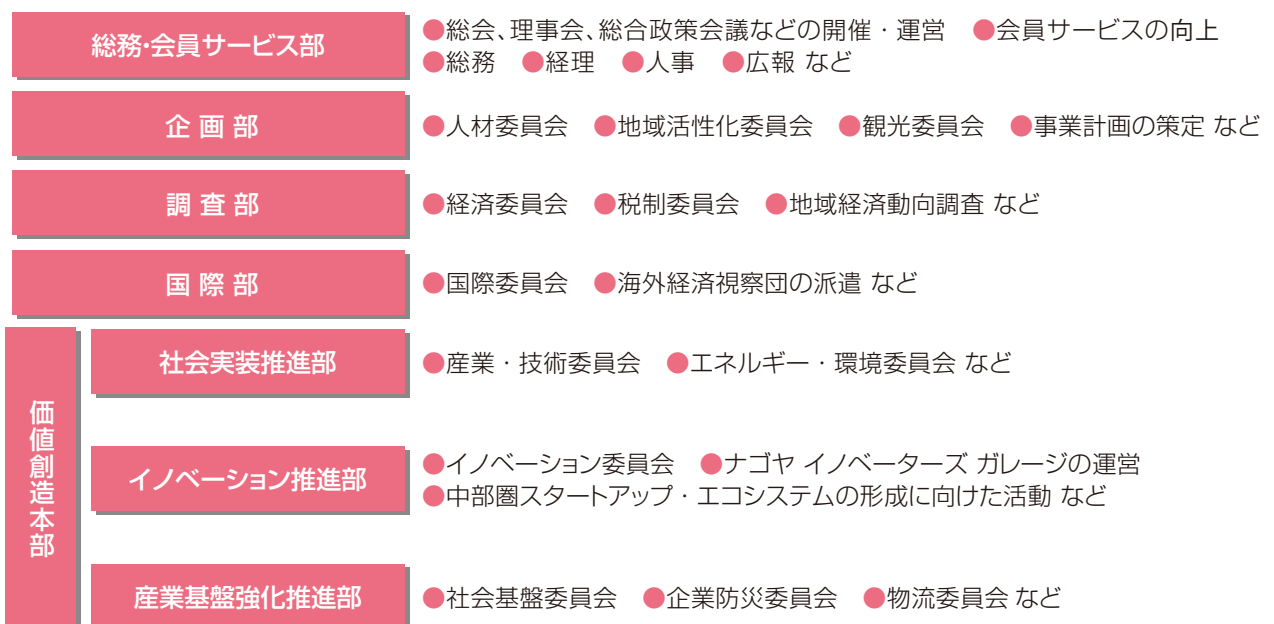
中経連は、当地の産学官金や地域間の「声を集め、力をつなぐ」広域経済団体として、プラットフォームの創出や情報連携、地域の声をワンボイスにして届ける政策提言などを通じ、中部圏の持続的な発展と競争力向上に貢献します。



機構図



事務局組織図



役員紹介

(役職名は2025年7月時点)

会長



勝野 哲
中部電力(株)
代表取締役会長

副会長



柘植 康英
東海旅客鉄道(株)
相談役



村瀬 幸雄
(株)十六銀行
代表取締役会長

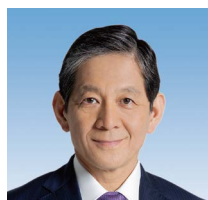


安藤 隆司
名古屋鉄道(株)
代表取締役会長

副会長



大島 卓
日本ガイシ(株)
代表取締役会長



中田 卓也
ヤマハ(株)
取締役会長



神野 吾郎
(株)サーラコーポレーション
代表取締役社長
兼 グループ代表・CEO



大西 朗
(株)豊田自動織機
取締役



安藤 仁
日本トランスシティ(株)
代表取締役社長
社長執行役員



松下 正樹
(株)八十二銀行
代表取締役頭取
頭取執行役員



高原 一郎
(株)三菱UFJ銀行
取締役副頭取執行役員



青木 武志
イビデン(株)
代表取締役会長



宮崎 洋一
トヨタ自動車(株)
代表取締役副社長



杉浦 雅和
(株)百五銀行
取締役頭取

理事



林 欣吾
中部電力(株)
代表取締役社長
社長執行役員 CEO



小川 恭範
セイコーエプソン(株)
取締役会長



柴田 久
(株)しずおか
フィナンシャルグループ
代表取締役社長



松尾 清一
国立大学法人
東海国立大学機構
機構長

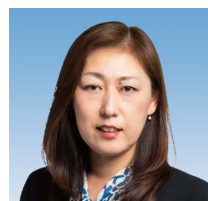


中村 宗一郎
国立大学法人信州大学
学長

理事



平光 範之
日本製鉄(株)
常務執行役員
名古屋製鉄所長



北川 尚子
東海東京証券(株)
代表取締役社長

監事

大津 正己
川北電気工業(株)
代表取締役社長

杉浦 正樹
中部日本放送(株)
代表取締役会長

鏡味 伸輔
東邦ガス(株)
代表取締役副社長執行役員

藤田 直樹
(株)みずほ銀行
常務執行役員

事務局役員

平松 岳人
専務理事

宮本 文武
常務理事事務局長

根本 恵司
常務理事

委員会

本会は12の委員会を設置し、国内外の経済社会などに関する諸課題について調査研究・提言を行うなどのさまざまな活動に取り組んでいます。あわせて、活動を通じた会員相互の交流を図っております。

経済委員会

委員長 高原 一郎

■ **経済政策、社会制度**などに関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

地域活性化委員会

委員長 村瀬 幸雄【岐阜】

共同委員長 柴田 久【静岡】 杉浦 雅和【三重】
松下 正樹【長野】

■ 会員・関係機関との連携による地域活性化策の検討
■ 地域を支える**産業の活性化**や**地域づくり**に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

税制委員会

委員長 杉浦 雅和

■ 産業育成・振興に資する**税制改正**や補助制度などに関する調査研究・提言および要望活動の展開

観光委員会

委員長 安藤 隆司

■ **観光の振興**に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

産業・技術委員会

委員長 宮崎 洋一

■ **次世代モビリティ（エアモビリティ含む）**などの高度化・振興に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開、新たな産業分野の調査研究

■ 産学共同研究フレームの構築に向けた調査研究および推進活動の展開

社会基盤委員会

委員長 柘植 康英

■ **総合的な交通ネットワークの整備**に関する調査研究・提言および要望活動の展開

エネルギー・環境委員会

委員長 林 欣吾

■ **脱炭素、サーキュラーエコノミーをはじめ、エネルギー・環境保全**に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

企業防災委員会

委員長 大西 朗

共同委員長 平光 範之

■ **防災・減災**に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

イノベーション委員会

委員長 青木 武志

共同委員長 大島 卓

■ **イノベーション力の強化、新産業の創出**に向けた調査研究・提言および要望・推進活動の展開

■ 中部圏におけるイノベーション・スタートアップの機能強化

物流委員会

委員長 安藤 仁

■ 温室効果ガス排出量削減や労働力不足への対応に資する**物流のあり方**に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

国際委員会

委員長 大島 卓

■ **産業のグローバル競争力強化**に関する調査研究・提言および推進活動の展開

■ **外国人材の活躍促進、多文化共生社会実現**に関する調査研究・提言および推進活動の展開

人材委員会

委員長 神野 吾郎

■ 産業・地域を支える**人材**に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

●最近の提言書・レポート

緊急提言 「強靱かつ持続可能」な上下水道事業に向けて～能登半島地震と八潮市道路陥没事故を受けて～
(2025年3月)／社会基盤委員会

レポート ライブ公演の中部圏誘致による若年層に魅力あるまちづくり (2025年3月)／調査部

提言書 中部圏ビジョン2050 (2025年2月)／経済委員会

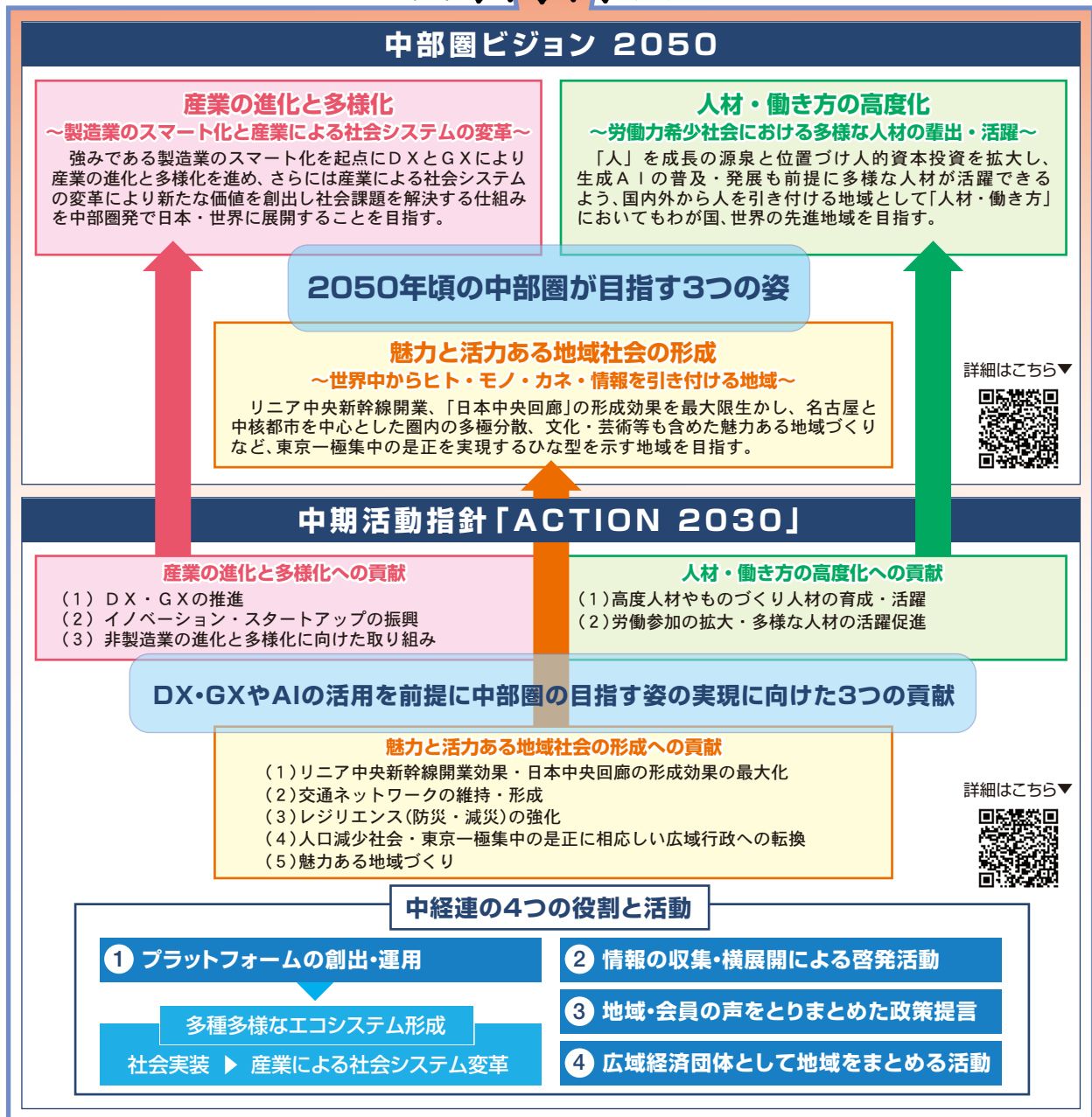
提言書 2025年度税制改正に対する意見 (2024年9月)／税制委員会

提言書 カーボンニュートラルの実現に向けた社会実装の推進 (2024年9月)／エネルギー・環境委員会

「中部圏ビジョン 2050」の実現に向けた 中期活動指針「ACTION 2030」 概要

中経連は、人口減少や地球環境への対応が続く大きな流れの中で、2050年頃には日本が「**豊かで持続可能な社会**」を実現していることを目指す「中部圏ビジョン 2050」を策定した。ビジョンでは日本の課題と対応の方向性を整理し、中部圏が貢献できること、すなわち中部圏の目指すべき姿として「**産業の進化と多様化**」「**人材・働き方の高度化**」「**魅力と活力ある地域社会の形成**」の3つを掲げている。

あわせて、2030年に向けた行動計画として中期活動指針「ACTION 2030」を策定し、中経連が担う4つの役割・活動と、ビジョンで掲げた中部圏の目指すべき姿の実現に資する具体的な取り組みを整理した。今後はこの指針に則り、わが国が「**豊かで持続可能な社会**」となるために、中部圏として貢献できる取り組みを進めていく。



2025年度事業計画 概要

詳細はこちら
(中経連HP)▶



1. 取り巻く環境の認識

ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢、自由貿易体制の揺らぎなど、現在、世界を取り巻く環境は混沌こんとんとしている。国内においても、人口減少・少子高齢化や東京一極集中といった長年の構造的課題に加え、物価上昇や地方における人手不足などの諸課題が山積している。

このような中、中部圏が引き続き持続的な成長を遂げるためには、当圏域の強みである産学官金の連携を突破口に、社会課題の解決に向けたイノベーションの創出・実装、多様な人材の活躍、地域の魅力づくりなどを通じた地域全体の競争力を高めていくことが不可欠である。

2. 2025年度の活動方針

2025年2月に公表した「中部圏ビジョン2050」（以下、ビジョン）では、人口減少や地球環境悪化が進む中においても、2050年頃の日本が「豊かで持続可能な社会」であるために、その実現に向けて中部圏が目指すべき姿として「産業の進化と多様化」「人材・働き方の高度化」「魅力と活力ある地域社会の形成」の3つを掲げ、それぞれに必要な取り組みを示した。6月には、本ビジョンで提示した3つの目指すべき姿の実現に向けて、中経連の中期活動指針として「ACTION 2030」を策定した。今後5年間（2025～2029年度）における本指針では、「産業の進化と多様化への“貢献”」「人材・働き方の高度化への“貢献”」「魅力と活力ある地域社会の形成への“貢献”」を活動の柱に据え、GX・DXやAIの活用を前提とした具体的な取り組みを示した。

そのスタートとなる2025年度は、新たなステージへと踏み出す重要な年である。これまでに培った基盤と経験を生かし、産学官金と地域間の“つなぎ役”として中部圏の魅力と地域力を最大限に引き出すことで、「豊かで持続可能な社会」の実現に貢献していく。

3. 2025年度の主な事業活動

産業の進化と多様化への貢献

DXとGXの推進による産業の進化・多様化に向けて、「製造業のスマート化」に向けた調査研究をはじめ、デジタルツインの活用促進、脱炭素技術や空モビリティを含む次世代モビリティの社会実装に向けた産学連携の促進、イノベーションエコシステムの形成、広域観光の振興などに取り組む。

人材・働き方の高度化への貢献

産学が連携したリカレント・リスキリング教育の促進をはじめ、副業・兼業などの新たな働き方やSTEAM[※]教育の拡充に向けた調査研究、留学生の地域定着に向けた交流事業などに取り組む。

※科学、技術、工学、芸術・リベラルアーツ、数学 (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) の5つの分野を総合的に学ぶ教育方法。

魅力と活力ある地域社会の形成への貢献

産学官金連携による広域課題の共有および解決に向けた議論のほか、生活圏・経済圏に対応した統治機構のあり方に関する調査研究、中部圏の魅力発信に資するイベントの開催、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援、リニア中央新幹線の開業効果最大化に資するインフラ整備や上下水道の強靱化に向けた国への働きかけ、減災対策の強化に資する啓発などに取り組む。

事業のベースとなる活動

地域や会員の声を反映した政策提言、中部圏で開催される国際イベントの成功に向けた支援、中経連の組織基盤強化などに取り組む。

主な活動紹介

産業の進化と多様化への貢献

1 DX・GXの推進、オープンイノベーションの活発化、製造業のスマート化

●DX・GXを先導する社会実装の推進

- ・C²-FRONTS^{※1}と連携し、COI-NEXT^{※2}採択事業への産学連携支援や「カーボンニュートラル共創シンポジウム」の開催による機運醸成活動を通じ、脱炭素に資する技術の社会実装を推進。
- ・中部圏での水素・アンモニアサプライチェーンの構築を目的に、供給インフラの整備に向けた国に対する要望活動の実施、地域における水素・アンモニアの普及に資する啓発活動の推進。

※1 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム：中部5県における全ての国立大学および高等専門学校により組成。

※2 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）が主導する「共創の場形成支援プログラム」



カーボンニュートラル共創シンポジウム

●製造業のスマート化に向けた調査研究

- ・「中部圏ビジョン2050」の柱の一つである「『製造業のスマート化』」を起点とした産業の進化と多様化に向け、先端企業の視察・ヒアリング、専門家による講演会などを通じた、今後の中経連としての具体的な打ち手の整理。
- ・デジタルツイン技術の産業利用に向け、地域の産学官と連携したプラットフォームの試行。活用事例を発信するイベントの開催や専門人材育成に向けた研修プログラムの提供など、本格運用に向けた活動の推進。

●産学官連携による次世代モビリティの社会実装

- ・CAMIP[※]における活動をベースに、次世代モビリティ（自動運転、空モビリティなど）が活用されるまちづくりへの参画、各地が推進する実証・実装活動の後押し、ステークホルダーが有する情報の収集・分析や好事例の展開および課題解決に向けたCOI-NEXTとの連携。
- ・空モビリティ領域におけるドローンの実証・実装に向けた課題の明確化、空飛ぶクルマの社会実装に向けた実証プロジェクトの組成支援およびイベントを通じた機運醸成を推進。

※中部先進モビリティ実装プラットフォーム：中部圏が将来にわたり「次世代モビリティ産業の世界的中心」であり続けるため、より効果的な産学官連携の推進を目的に、2021年5月に中経連と名古屋大学が共同で立ち上げた活動体



●デジタルリテラシー向上・サイバーセキュリティ対策の強化

- ・デジタルスキル習得に向けた講座の提供や、地域のデジタルリテラシー研修を発信するWEBサイトの運営。
- ・企業のサイバーセキュリティ対策の強化に向けた啓発イベントの実施。

詳細はこちら

中部圏デジタルのすすめ



デジタルを学べる場を発信するWEBサイト



中経連デジタル技術講演会

主な活動紹介

2 イノベーション・スタートアップの振興

●スタートアップ・エコシステムの形成活動の推進

- ・内閣府第2期グローバル拠点都市コンソーシアム（Central Japan Startup Ecosystem Consortium）における活動の推進。活動エリアの広域化、グローバルイベントの開催など。
- ・中部圏における主要なイノベーション・スタートアップ支援拠点との連携を促進する仕掛けづくり。

企業の新規事業創出に向けた伴走型支援プログラム



●ナゴヤ イノベーターズ ガレージにおけるイノベーション創出人材の育成および人材越境の促進

- ・事業会社を対象とする人材育成プログラムや異業種・異分野間交流など、共創と実践的学びの場の提供。
- ・起業家を目指す学生や多様なキャリアを模索する社会人に、挑戦と学びの機会の提供。

ナゴヤ イノベーターズ ガレージ (NIG) とは
2019年7月に名古屋市とともに開設した、中部圏のイノベーション創出に向けた拠点

所在地
名古屋市中区栄三丁目 18-1
ナディアパーク3・4F

累計来場者数
178,539名 (2025年6月8日時点)

2024年度のイベント開催数／参加者数
449回／延べ 25,483名

NIGでは、「中部圏において、共創・オープンイノベーションを通じて産業の進化や多様化が継続的に生まれる仕組み」を「**中部圏イノベーションエコシステム**」と定義。新規事業や新たな価値の創出に向けて、事業会社向けおよびアントレプレナー向けに、「マインド形成」「気づき・発見」「融合・成長」「共創・実践」の4つのステージを通じて多様なプログラムを展開している。

融合・成長

シーズやアイデア、さまざまな課題（顧客、社会）

気づき・発見

共創・実践

新規事業の創出（新しい領域）

マインド形成

- 成長支援プログラム：事業会社向け、アントレプレナー向けで提供
- 各プログラムの参加者を交流会でつなぐ：幅
- 継続的なメンタリングで成長の質、スピードを上げる：厚み

事業創出・価値創造

事業会社向け 8のプログラム

アントレプレナー向け 6つのプログラム

4つの交流会

継続的なメンタリング

3 観光振興

●広域観光の促進

- ・自治体間の連携強化に向けたプラットフォームの構築、各種会議体を通じた情報発信。
- ・広域観光の振興に対する理解促進・機運醸成に向けた、観光委員会における講演会・視察会の開催。
- ・「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」（2025年9月開催）の成功に向けた支援や、今後開催を目指す中部圏の観光振興に資するイベントの誘致活動支援。



長野県・妻籠宿の町並み保存活動を視察

●中央日本総合観光機構の活動支援

- ・中部圏における観光政策の司令塔を担う（一社）中央日本総合観光機構（広域連携DMO）の基盤強化に向けた支援。

4 経済政策・社会経済制度に関する調査研究・提言

●経済政策、社会制度などに関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

- ・「中部圏ビジョン 2050」の柱の一つである『製造業のスマート化』を起点とした産業の進化と多様化」に向けた調査・研究および、今後の中経連としての具体的な打ち手の整理。
- ・経済産業動向や地域社会の課題に関するレポートの作成・公表。
- ・「中部圏における景況感の現状と見直し」「経済調査月報」「中部圏に関する基礎的データ集」の公表。

●地域経済や産業の振興に資する税制改正に関する調査研究・提言および要望活動の展開

- ・中経連各委員会の活動も踏まえた「2026年度税制改正に対する意見」の策定・公表、その実現に向けた政府、国会議員、自治体などに対する要望活動の実施。
- ・税制改正内容の理解促進・利用促進に向けた会員に対する情報提供。

5 国際経済交流の促進

- ・海外経済視察団の派遣。（2024年度実績：オーストリア・スイス・イタリア、2025年度予定：中近東）
- ・最新の国際経済・国際情勢をテーマとする講演会や外国機関との共催・連携による経済交流イベントの企画・開催。



ウィーン商工会議所との経済・都市開発やスタートアップに関するディスカッション



トリノ市議会との都市開発や国際交流に関するディスカッション

人材・働き方の高度化への貢献

1 人材育成

●社会環境の変化に対応した働き方や教育の変革につながる活動の推進

- ・中小企業を中心としたリカレント・リスキリング教育のニーズ把握、産学連携・マッチングの試行・実施。
- ・会員企業から会員大学に講師を派遣する「キャリア教育共創プログラム」の推進と利用拡大。
- ・「副業・兼業」や「STEAM教育の拡充」に資する調査・研究、好事例や関連情報の発信。

2 多様な人材の活躍

●産学官連携による外国人材の活躍促進

- ・企業と外国人留学生の相互理解を目的とした交流会の開催など、中部圏における外国人材の活躍・定着に向けたイベントの企画・開催。



外国人留学生と企業との交流会

魅力と活力ある地域社会の形成への貢献

1 広域連携の促進

●広域産学官連携の強化

- ・第4回 中部圏広域産学官連携協議会の開催に向けた、実務者層による広域産学官協働ワーキンググループの開催。産学官金による広域課題の共有、課題解決に向けた議論・活動の推進を活動目的とした新たな仕組みづくりの検討。



中部圏広域産学官連携協議会

主な活動紹介

●生活圏・経済圏に対応した統治機構のあり方に関する調査・研究

- ・人口減少や人流・物流の実態などを踏まえた、これからの時代に相応しい統治機構のあり方に関する調査研究の実施。

2 中部圏の魅力づくり

●中部圏における魅力の発掘・情報発信

- ・「中部の魅力を語る なでしこの会」主催による「新しい中部の魅力づくり」をテーマとするイベントの開催や、各種媒体を活用した情報発信。
- ・地域産品の知名度や付加価値向上に向けた、東三河地域を対象とする魅力発信イベントの開催。



東三河産品の魅力を発信するイベント

●多文化共生社会の実現

- ・外国にルーツを持つ児童生徒向け日本語／学習教室の支援を目的とした、企業のボランティア人材と教室のマッチング活動の継続・拡大や、日本語／学習教室の会場確保・拡充に向けた企業への働きかけなどの実施。



企業のボランティア人材と日本語／学習教室をつなぐマッチングイベント

3 社会インフラの維持・形成

●道路・港湾の早期整備および日常インフラの強靱化

- ・「中部圏交通ネットワークビジョン」（2022年3月公表）および報告書『『日本中央回廊』の効果最大化に資する道路ネットワーク整備』（2024年3月公表）の実現に向け、自治体などと連携した政府・与党に対する要望活動の実施。
- ・提言書『『強靱かつ持続可能』な上下水道事業に向けて』（2025年3月公表）の実現に向け、政府・与党に対する要望活動の実施。
- ・次期「中部圏交通ネットワークビジョン（仮称）」の策定に向けた調査・検討の開始。



『『強靱かつ持続可能』な上下水道事業』の実現に向けた要望

●セントレアの機能強化・利便性向上

- ・代替滑走路整備の着実な進展に向け、地元関係者と連携した政府・与党への要望活動の実施。
- ・「中部国際空港利用促進協議会」を通じたセントレアの旅客・貨物需要拡大に向けた施策の展開および航空ネットワーク拡充に向けたエアポートセールスの実施。



中部国際空港第二滑走路建設促進期成同盟会による要望活動

●持続可能な物流の構築

- ・物流業界が抱える課題や物流関連2法改正による影響の調査・研究、提言書「持続可能な物流の構築に向けて」（2023年12月公表）のフォローアップの実施。
- ・物流に関する時宜を得たテーマの講演会の開催、行政や業界団体から得た情報の発信。

4 レジリエンスの強化

●災害対策強化

- ・南海トラフ巨大地震への対策に主眼をおいた大規模災害に対する減災意識の醸成や減災対策のレベル向上を目的とした講演会および勉強会の開催。
- ・民間だけでは対応が困難な防災目線によるインフラの整備強化など、公助の拡大に向けた要望活動などの取り組み。



企業防災委員会講演会

地域会員懇談会の開催 ～中部圏各地域で意見交換・交流～

本会では、中部圏各地域が抱える諸課題について、当地会員との意見交換を通じて、会員のニーズを把握し本会の事業活動に生かすことを目的とした「地域会員懇談会」を開催しています。また、懇談会終了後には、関係の深化を目的とした交流会を行っております。

〈2024年度の実績〉



講演会・セミナー・会員交流事業・他経済団体との会合などの開催

本会では、時節を捉えたテーマによる講演会をはじめ会員相互の交流を目的とする会員忘年会や新春賀詞交歓会、経団連との意見交換・交流を目的とする「東海地域経済懇談会」などの開催を通じて、会員同士の交流促進につながる活動を展開しています。

- 定時総会 [6月]
- 西日本経済協議会 総会 (北陸、関西、中国、四国、九州の経済連合会による会合) [秋頃]
- 会員忘年会 [12月]
- 新春賀詞交歓会 [1月]
- 東海地域経済懇談会(経団連との会合) [2月]
- 講演会、セミナー、ネットワーキングイベント [随時]
- 海外経済視察団 [年1回]

など

講演会、セミナー、ネットワーキングイベントの開催例

- カーボンニュートラル共創シンポジウム
- デジタル人材育成セミナー
- 講演会、セミナー
「環境とイノベーションの未来 パネルディスカッション」【モデレーター】慶應義塾大学 教授 白井 さゆり 氏
「過去に学び未来に備える南海トラフ地震対策」名古屋大学 名誉教授 福和 伸夫 氏
グローバルセミナー「ヨーロッパ市場への入り口としての中央ヨーロッパの魅力」
- 「中部の魅力を語る なでしこの会」イベント
- サイバーセキュリティイベント

上記以外にも多数開催



定時総会



会員忘年会



東海地域経済懇談会(共同記者会見の様子)

情報発信活動

本会では、機関誌「中経連」や経済調査レポートなどの発行を通じて、中経連の活動内容を発信しています。また、ホームページやメールマガジンでは、各委員会が開催する会員限定の講演会・セミナー、本会やナゴヤ イノベーターズ ガレージ主催によるイベントのほか、関係機関や外国公館、行政、経済団体からのお知らせなど、中部圏に関するさまざまな情報をタイムリーにお届けしています。

会長コメントの発出

中経連会長の定例記者会見の発言
要旨や各種コメントをご紹介します。



経済調査レポートの発表

中部圏の景気動向や経済指標などを
発信。

メルマガの配信

会員限定のイベントや耳よりな情報を
いち早くお届け。

詳細・登録は
こちら ▶



機関誌「中経連」の発行 (2カ月に1回)



機関誌でしか読めない会員代表者の
巻頭言やコラム、新入会員紹介、中部圏
に関する特集記事を掲載！

提言・要望活動の紹介

各委員会がとりまとめた提言・要望
の詳細を掲載。

中経連のあゆみ

1951年	4月	中部経済連合会創立
1957年	3月	「中部経済5カ年計画」発表(伊勢湾に銑鋼一貫メーカーの誘致を提唱)
1958年	9月	本会の誘致により東海製鐵株式会社(現・日本製鐵株式会社名古屋製鉄所)設立
1963年	4月	「東海3県統合構想」発表
1969年	12月	「大規模国際貨物空港建設構想」発表
1982年	4月	「21世紀の中部ビジョン」発表
1985年	2月	「三遠南信トライアングル構想」発表
1985年	4月	財団法人ファインセラミックスセンター(現・一般財団法人ファインセラミックスセンター)設立
1991年	2月	財団法人国際環境技術移転研究センター(現・公益財団法人国際環境技術移転センター)設立
1991年	5月	社団法人に移行し、運営基盤を強化
1998年	5月	中部国際空港株式会社設立
2001年	11月	「21世紀中部の針路」発表
2001年	11月	中部国際空港利用促進協議会設立
2005年	2月	中部国際空港(セントレア)開港
2005年	3月	2005年日本国際博覧会(愛知万博)開幕
2005年	10月	中部(富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀)広域観光推進協議会設立
2007年	4月	ファインセラミックスセンター内にナノ構造研究所設立
2012年	1月	昇龍道プロジェクトがスタート
2012年	4月	一般社団法人に移行
2017年	5月	広域連携DMO・一般社団法人中央日本総合観光機構発足(中部広域観光推進協議会を発展的に改組)
2019年	5月	一般社団法人中部圏イノベーション推進機構設立
2019年	7月	ナゴヤ イノベーターズ ガレージ開設
2021年	6月	創立70周年記念式典開催
2022年	7月	ナゴヤ イノベーターズ ガレージ拡張(Annex)
2025年	2月	「中部圏ビジョン 2050」発表
2025年	6月	「中期活動指針『ACTION 2030』」発表



入会案内

入会までの流れ・会費

入会条件 中部圏の発展に向けて、本会の活動趣旨にご賛同いただける法人および団体

入会までの流れ



会費

● 法人会員 —— 180,000円(1口) ● 団体会員 —— 30,000円(1口)

※会費期間は4月から翌年3月までの1年間です。

※初年度は入会月から3月までの会費を月割りで請求させていただきます。

入会のメリット

委員会や懇談会に
参加いただけます

委員会や会員懇談会に参加いただくことで、その「声」を政策提言に反映することができます。より良い中部圏をつくるために、共に活動してみませんか？

ネットワークを
構築できます

中経連には、中部圏を代表するような企業・学校法人・経済団体のほか、中部圏以外に本社を置き、国内外で活躍する企業、大企業だけでなく中堅・中小企業など、多くの方に入会いただいております。
委員会やその後の交流会をはじめ、会員忘年会や視察会など、ネットワークづくりにつながるイベントを多数用意しております。ぜひ仲間づくりにご活用ください。

さまざまな情報が
得られます

中経連は委員会や講演会、シンポジウムを適宜開催しているほか、国、自治体、大学などと連携しております。多方面にわたるさまざまな情報収集にご活用ください。

入会に関するお問い合わせ先

一般社団法人中部経済連合会 総務・会員サービス部

〒461-0008

名古屋市東区武平町5丁目1番地 名古屋栄ビルディング10階

TEL 052(962)8091 FAX 052(962)8090

E-Mail info@chukeiren.or.jp

中経連HP 「入会案内」



中経連 入会



アクセス



〒461-0008 名古屋市東区武平町5丁目1番地 名古屋栄ビルディング10階
TEL 052 (962) 8091 FAX 052 (962) 8090

● 鉄道でお越しの場合

【名古屋市営地下鉄】東山線・名城線「栄」駅下車

【名古屋鉄道】瀬戸線「栄町」駅下車

地下鉄5番出口より東へ徒歩1分

● お車でのお越しの場合

【名古屋高速都心環状線・空港線】「東新町」出口から西へ3分

※本会は来客用の駐車場を備えておりません。

最寄の有料駐車場「愛知芸術文化センター地下」「アートパーク東海駐車場」「中日ビル駐車場」などをご利用ください。



名古屋栄ビルディング外観



シンボルマークのコンセプト



- ・中経連の英語名 (Chubu Economic Federation※) の頭文字をモチーフに 2001 年にデザイン。
- ・左から右へ波打つように「躍動」「飛躍」していく姿を象徴。
- ・C、E、F の 3 文字が互いにつながり「交流」「連携」をイメージ。
- ・デザインの中に同心円を使用し、「求心力」を表現。

カラー：くすみのない朱色

好況＝「はれやかな景気」をイメージ。

※2017 年に Central Japan Economic Federation に英語名を変更